

大学生活のヒント学んで

新入生歓迎セミナー



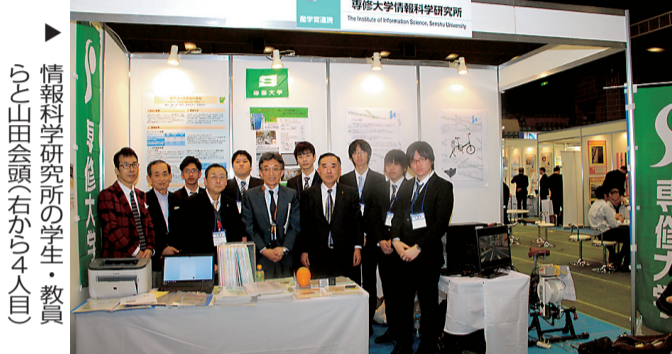
これから始まる大学生活を充実させるヒントを見つけてもらおうと新入生歓迎セミナーが3月23日、箱根セミナーハウスで行われた。参加した新入生は、先輩の体験談を聞いたり、プレゼンテーションに取り組んだり、

先輩の体験を聞く新入生ら
りして、大学生活をスタートさせる準備を進めた。
新入生16人、引率学生9人、教職員8人が参加。自己紹介で打ち解けた後、2年次以上の引率学生が履修や大学生活、サークルなどについて説明。「生活リズムを整えるようにしよう」などと具体的にアドバイスした。
2日目は富士急ハイランドでリフレッシュ。その体験をもとに、5班に分かれて改善点や新企画などを考え、プレゼンテーションを行った。

バヤル！ 人力発電自転車人気

川崎国際環境技術展

国内外の企業や団体、学研究所(関根純所長)が出席、ネットワーク情報学部と文学部の研究室がIoT(情報技術)を活用した成果を発表した。綿貫理明プロジェクトの3年次生8人(ネット情報)は、仮想現実(VR)の世界を疾走する人力発電自転車展示



の3年次生8人(ネット情報)は、仮想現実(VR)の世界を疾走する人力発電自転車展示
子どもの体力向上が開

した。Googleのような装置を目元に装着するとアニメーション画面の原っぱが眼前に広がり、木や柵をよけようとハンドルを持つ手やペダルをこぐ脚に力が入る。2010年から開発を続ける綿貫研究室の人力発電自転車に、新たにVRのシステムを加えた画期的なもの。

「電子書籍アクセシビリティ研究会」を立ち上げ、中途失明者や難読症の人に便利な「音声コード」の普及に努める文学部人文ジャーナリズム学部の植村八潮・野口武梧研究室は、植村ゼミの高橋幸宏さん(4)が普及の現状と課題を発表した。読み上げ装置にかざすと文字情報を音声で聞き取れる音声コードは、情報のバリアフリー化を担う。高橋さんは官庁発行の音声コードが採用された印刷文書172点を入手、作成ルールが守ら



CALL自習室蔵書の対訳本

発のねらい。「楽しんで運動できるゲーム性に重点を置いた」と代表の柴崎凛大さんは話す。川崎商工会議所会頭の山田長満氏をはじめ、海外の若い出展者などが試乗し、「自転車に乗る感覚そのもの」「リアルで乗り物酔いをしそう」と歓声が上がった。メンバーは来場者の声から「発電した電気を有益に使う仕組みが必要」と課題を挙げた。「電子書籍アクセシビリティ研究会」を立ち上げ、中途失明者や難読症の人に便利な「音声コード」の普及に努める文学部人文ジャーナリズム学部の植村八潮・野口武梧研究室は、植村ゼミの高橋幸宏さん(4)が普及の現状と課題を発表した。読み上げ装置にかざすと文字情報を音声で聞き取れる音声コードは、情報のバリアフリー化を担う。高橋さんは官庁発行の音声コードが採用された印刷文書172点を入手、作成ルールが守ら

外国語の又又必 外国語教育研究室

— 46 — 英語

神白 哲史 ネットワーク情報学部准教授

外国語学習法の一つに「多読」が挙げられます。たくさん外国語を読めば、トレーニングになるというのは自明です。ですが、外国語をたくさん読むのは骨が折れることでしょうか。「内容がわからなくても眺めているだけでよいのか?」「わからない単語や表現は調べるべきか?」など、さまざまな疑問や不安を持つことにもなると思います。

対訳多読のすすめ

一般的には「多読」をする際には、「辞書を引かなくても理解できる程度の教材を使用する」ことが望ましいとされています(そもそも、辞書をいちいち引いたら「多量」に読めません)。ですが、それらの教材を探すのは結構大変です。第一、それが自分の読みたい本なのか、という問題が出

てきます。そこで、「日本語の対訳」で理解を補いながら、外国語に多量に触れるための「多読」をすることを一つのトレーニング方法として提案したいと思います。限られた時間の中で、できるだけたくさんの外国語の表現に触れることを目指します。そのためには、日本語で理解を補ってしまうのが効果的です。一文一文をじっくりと理解していくのではなく、ある程度の理解に基づいて、外国語の表現にどんどん触れる。たくさん触れるので、さまざまな表現になじんでいくことができます。読書を楽しむことが大事なので、自分が楽しく読めるものを読みましよう。面白い本をたくさん読んで、外国語の勉強になるのであれば、お得だと思いませんか。CALL自習室のライブラリーの活用をお勧めします。※短縮版。全文はCALL研究室ホームページで。

世界学生王座戦V／プロから金星

囲碁の大関さん(商2)快進撃



学生囲碁の世界チャンピオンを決める第14回世界学生囲碁王座戦(日本経済新聞社主催)が2月23、24の両日、東京都銀座インターネットフォーラムで開催され、大関悠さん(商2)が優勝した。日本勢の優勝は10年ぶり2回目。

大会には中国、台湾、韓国、米国など世界12カ国・地域から16人が参加。大関さんは4戦全勝してチャンピオンになった。「試合前は緊張した。一戦ごとに波に乗り、楽しんで碁を打つ」と晴れ晴れとした表情で語った。

大関さんは昨年、学生三タイトルの全日本学生囲碁十傑戦(朝日新聞社主催)と全日本学生囲碁王座戦(日本経済新聞社主催)に優勝して二冠

を獲得。11月の「十傑戦」以来公式戦無敗が続いた。2月に行われたアマがハンディなしの対等の立場でプロに挑む「阿含・桐山杯第23期全日本早碁オープン戦」では、元タイトルホルダーのトップ棋士、王立誠九段を破るなどプロから3勝を挙げ、絶好調だ。

次の目標は、残る学生三タイトルの全日本学生因坊決定戦(毎日新聞社主催)。昨年は惜しくも準優勝だった。「今年は優勝を目指します」と意欲を燃やす。

特別賞1人 優秀賞14人

経営学部長賞

学術やスポーツなどで活躍した学生をたたえる経営学部の学部長表彰式が3月18日、生田キャンパスで行われ、特別賞1人と優秀賞14人に馬場杉夫学部長から表彰状が贈られた。

特別賞の福井瑞来さんは、故郷の下呂温泉(岐阜県)の振興策を考察した研究論文が日本温泉地



表彰される土屋さん(右)

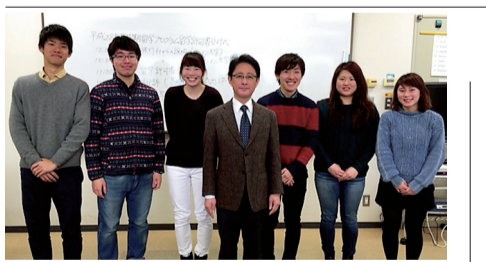
域学会の論文誌に掲載された(本紙2月号既報)。都内のPR会社に

就職し、ゼミで身につけた企画力や行動力をマーケティングの仕事に生かす。優秀賞の清水陽平さんは、経済産業大臣が認定する国家資格「応用情報技術者試験」に合格した。IT技術や企業活動につ

いての深い知識が必要とされ、合格率は約20%。基本情報技術者試験の合

格を目指す大曾根匡ゼミに入ったのをきっかけに、猛勉強し、1年で「基本」の2つの試験を突破した。「ITコンサルタントとしてシステムを活用し、貧困格差の解消につながる仕事をした」と話す。

表彰式に先立って開かれた茶話会では、馬場学部長と矢澤清明教授が受賞者からそれぞれの成果



中期留学生6人

2016年度(前期)留学プログラム(前期)に6人が決まった。米オレゴン大学には3月25日から8月29日まで3人、豪ウーロンゴン大学には4人、

高橋裕国際交流センター長と中期留学生(商3) 3人、ウーロンゴン大学▽門導彦(経済2)▽今泉宏太(法3)▽高野未優(商3)